

unysizeSDK for Android Kotlin 用サンプルコードについて

unysizeSDK for Android Kotlin を使用して unysize の各機能を利用するための簡単なサンプルアプリケーションのプロジェクトです。unysizeSDK を Kotlin で実装する場合の実装サンプルとして、また、機能テスト用としてご利用いただけます。

※ SDKに付属している「導入手順」「SDKリファレンス」も合わせてご確認ください。

使用しているSDK

- unysizeSDK for Android Kotlin

※ unysizeSDK の利用には unysize が発行したクライアント識別ID（CID）が必要です。

動作環境

- Android 11（API レベル 30）、またはそれ以降

プロジェクト内の主なファイル

- MainActivity.kt
UnysizeBanner Class の実装を確認いただけます。
- CVTagTestActivity.kt
UnysizeCVTag Class の実装を確認いただけます。
- /layout
サンプルで使用しているアクティビティのレイアウトファイルが含まれています。

unysizeバナーの表示テスト

MainActivity.kt

L27～28

下記の部分に「クライアントID」、「アイテム識別ID」を設定して起動して下さい。
unysizeバナーが表示されます。

```
private var cid: String = ""  
private var itm: String = ""  
private var cuid: String = ""  
private var lang: String = ""
```

CVタグの発火テスト

unysizeSDK Sample App > unysizeSDK Sample App > CVTagTestViewController.swift

L27～36

下記の部分に「クライアントID」、「クライアント会員ID」、「購入ID」、「購入数」、「アイテム識別ID」、「価格」、「サイズ」を設定して起動すると、画面表示時にCVタグが発火します。

実装方法の確認用としてご利用ください。

※実際に購入として集計されるため、起動する場合は、unysize が発行したテスト用クライアント識別ID（CID）を使用して実行して下さい。

```
val cid: String = "" // クライアントID
val cuid: String = "" // ECサイトの会員ID
val purchaseid: String = "" // 購入時に発行された注文ID
val itemnum: List<String> = listOf("") // 購入数（アイテム毎）
val itemid: List<String> = listOf("") // 購入アイテムのアイテムID
val price: List<String> = listOf("") // 購入アイテムの金額（アイテム毎）
val size: List<String> = listOf("") // 購入したアイテムのサイズ（アイテム毎）
val iteminfo: String = ""
val regType: String = ""
```